

足の痛みやしびれで長時間歩けない ことはありませんか？

これらの症状を改善すると期待される薬の候補があります！

ようぶせきちゅうかんきょうさくしょう

腰部脊柱管狭窄症の患者様へ

治験にご参加いただける方

○腰部脊柱管狭窄症による

間欠跛行の症状を有している方

○40歳以上、80歳未満の方

○重い病気を合併していない方

*その他にも基準が有り、治験にご参加いただけない場合がございます。

治験の期間は最長で約9ヶ月です。

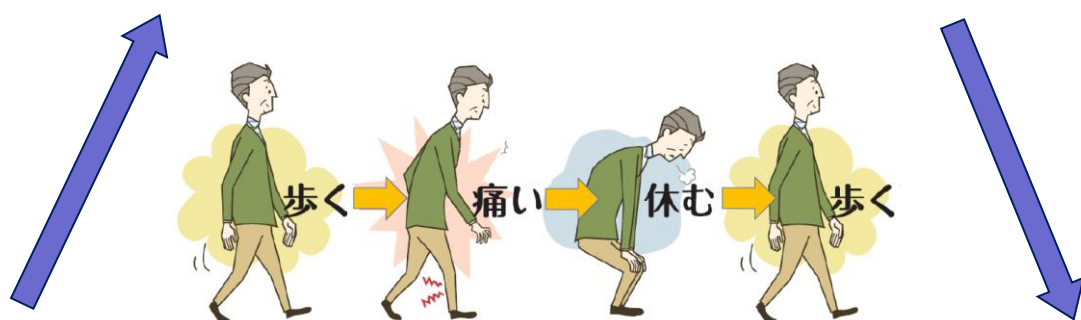
(1) 腰部脊柱管狭窄症とは？

腰部脊柱管狭窄症とは、加齢などさまざまな原因で、腰部の脊柱管（神経を取り囲む管）が狭くなることで、中を通る神経と血管を圧迫し、血行を障害することにより症状が出る病気です。

みられる症状として、間欠跛行、腰痛、下肢の疼痛、しびれなどがあります。このうち、間欠跛行は腰部脊柱管狭窄症に最も特徴的な症状であり、6割以上の患者にみられるといわれています。

(2) 間欠跛行とは？

しばらく歩くと足のどこかが痛む、しびれるなどして歩けなくなる



再び歩けるようになる

前かがみで休憩すると症状が治まる

安静にしている時には症状がないのに、しばらく歩くと、下肢の痛み、しびれ感、つっぱり感などの症状が出る。

しかし、しばらく前かがみになって休むと、痛みやしびれ感などの症状は無くなり、また歩けるようになる。

このような症状を繰り返すことを間欠跛行といいます。

間欠跛行になると、歩ける時間が短くなるため、行動できる範囲が狭くなったり、他の人と一緒に行動することが難しくなるなど、生活に支障が出てきたりします。

腰部の脊柱管内の物理的な圧迫を取り除いたり、血液の循環を良くすることによって、症状の改善が期待され、日常生活での制限を改善することができると考えられています。



(3) 主な治療法

治療法としては、主に以下のものがあります。

○ お薬での療法

痛みをとる薬、血管を広げることで血液の流れを改善する薬などが使用されています。

○ 理学療法

ホットパック、超音波、コルセットなどを用いる対症療法があります。

○ 神経ブロック注射

患部あたりの神経またはその周辺に麻酔薬を注射することで痛みを和らげ、血流を良くする方法です。

○ 外科手術

脊柱管内の神経が圧迫されている箇所のお骨やじん帯の一部を取り除き、神経の通り道を広げる方法です。

治験とは

新薬が世に出るためには、厚生労働省から医薬品としての承認を得ることが必要です。そのための重要な段階として「治験」が行われます。治験とは、医薬品としての承認を得るために、健康な人や患者様の協力を得て有効性の評価と安全性の確認を行う試験のことです。

詳しくは、下記までお問い合わせください

- 医療法人社団尚整会 菅整形外科病院
整形外科 治験責任医師：菅 尚義
- 連絡先（代表） 0957-23-2388
- 相談窓口 治験管理室 治験コーディネーター

